

令和7年度 学力向上推進プラン

青梅市立泉中学校

I. ビジョン

誰一人孤立させない、生徒も教師も学び合う学校
～心ある生徒の育成～

II. 過去4年間の生徒の実態から

(1) 全国と東京都の学習状況調査に伴う質問紙の結果

令和3年度から令和6年度 全国学力・学習状況の生徒質問紙(本校3年生)

| 問題番号 | 質問事項 | R3 | R4 | R5 | R6 | R6都 | R6全 |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------|------|------|------|------|------|------|
| 6 | 平日、一日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマホでSNSや動画視聴などをしていますか。(1時間以上) | | 78.3 | | 86.4 | 79.8 | 79.2 |
| 9 | 自分には良いところがあると思いますか。(青梅市学力向上5か年計画数値目標 R6 80% R6 83%) | 72.6 | 70.4 | 78.8 | 81.5 | 83.4 | 83.3 |
| 10 | 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか | | 77.3 | 86.2 | 84.5 | 88.4 | 90.4 |
| 11 | 将来の夢や目標を持っていますか。 | 56.5 | 70.5 | 60.2 | 66.0 | 64.4 | 66.3 |
| 13 | いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。 | 95.4 | 93.1 | 98.3 | 97.1 | 94.7 | 95.7 |
| 14 | 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか | | 56.5 | 78.0 | 62.1 | 67.1 | 67.5 |
| 15 | 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。 | 93.2 | 90.4 | 95.9 | 97.1 | 83.9 | 95.2 |
| 18 | 学校に行くのは楽しいと思いますか。 | 78.8 | 72.2 | 88.6 | 78.6 | 83.0 | 83.8 |
| 21 | 平日、学校の授業以外に一日あたりどれくらい勉強しますか。(1時間以上) | 70.2 | 66.0 | 74.8 | 62.2 | 70.8 | 64.3 |
| 33 | 生徒の間で話し合うことを通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。 (青梅市学力向上5か年計画数値目標 R6 78% R7 80%) | 81.7 | 80.0 | 87.0 | 85.4 | 85.5 | 86.1 |

(2) 令和6年度東京都児童生徒の学力向上を図るための調査質問紙の結果

令和6年度 東京都 児童・生徒の学力向上を図るための調査用紙(泉中学校)

| 質問事項 | 当てはまる | | +評価 | | R5の+評価 | |
|------------------------------------------------|-------|------|------|------|--------|------|
| | R6本校 | R5本校 | R6本校 | R5本校 | 本校 | 東京都 |
| 12-1 授業では、問題や活動に取り組んで「分かった」と感じる人が多いと思う。 | 37.9 | 41.7 | 81.3 | 85.4 | 85.4 | 83.1 |
| 12-2 授業では、前の時間までに学習した内容と結び付けて考える時間があると思う。 | 29.7 | 36.7 | 79.8 | 83.6 | 83.6 | 80.2 |
| 12-3 授業では、他の教科の授業で学習した内容を生かして考える時間があると思う。 | 29.4 | 32.1 | 74.3 | 77.6 | 77.6 | 74.0 |
| 12-4 授業で他の人と考えを交流しながら課題を解決する活動を行っていると思う。 | 39.1 | 49.9 | 82.3 | 88.7 | 88.7 | 84.7 |
| 12-5 授業では、自分が理解したことや考えたことを他の人や先生に説明する時間があると思う。 | 32.1 | 39.1 | 78.3 | 81.4 | 81.4 | 77.9 |
| 12-6 授業では、学習した内容をどのように振り返ったらよいかを、教えてもらっていると思う。 | 20.8 | 31.2 | 72.5 | 75.2 | 75.2 | 71.5 |

(3) NRT (数研式 標準学力検査) の結果

令和4年度から6年度 数研式標準学力調査(NRT)

| | 国語 | 社会 | 数学 | 理科 | 英語 |
|------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| R6年度 | 2022・2023・2024 | 2022・2023・2024 | 2022・2023・2024 | 2022・2023・2024 | 2022・2023・2024 |
| 1年生 | 〇・〇・46.1 | 〇・〇・43.6 | 〇・〇・47.0 | 〇・〇・44.6 | 〇・〇・48.3 |
| 2年生 | 〇・47.4・46.5 | 〇・43.7・43.9 | 〇・47.1・47.1 | 〇・42.6・44.0 | 〇・49.3・49.3 |
| 3年生 | 47.7・49.3・48.1 | 44.4・44.0・46.1 | 47.9・46.7・46.4 | 44.1・42.6・46.0 | 50.5・49.3・49.4 |

3年生の全国学力・学習状況調査の質問紙では、質問9において、過去4年間で一番高い数値になっている。また、質問10・11・13・15・18も高い数値を示しており、本校が目指す自己有用感が高まっていることが分かる。質問33も85.4%と青梅市5か年計画の目標値よりも高く、「協同学習」の成果だといえる。しかし、東京都生徒の学力向上を図るための質問では昨年の本校の平均よりも下がってしまった。学校として授業改善が定着していないことが分かる。NRTの結果は社会と理科で過去よりも高い。引き続き、「協同学習」を軸とする授業改善を進めていく必要がある。

Ⅲ 授業改善の方針及び対応策

1 方針

青梅市「学力向上5か年計画」に従い、全教育活動を通して実行する。青梅市研究指定校2年目として、研究主題を『予測が難しい時代を生き抜くために必要な力の育成～「生徒支援」「学力康応」「働き方改革」・三位一体のアプローチ～』とし研究している。6年間積み上げてきた「探究と協同の学び」の創造をテーマに、一人も独りにしない学びおよび一人残らず学ぶ権利を保障していく学びの授業の追求を継続し、「習得」⇔「探求」⇔「発信」の流れを大切に、生徒がワクワクするような授業の工夫・改善を図る。学習の質を高めるために「他に考え方はないか」「本当にこれで良いか」「分かりやすいか」という3つの内言を常に意識させる。発信では泉中発表スタンダードを基にノー原稿で自分の言葉で相手に伝えることに重点を置く。これによって自己有用感をもたせ、学習に対する意欲も向上させる。「共有の課題」と「ジャンプの課題」を用意し、ペアや四人組を活用して「つなぐ」ことを重視した授業を行う。

2 対応策

(1) 各教科等の指導に関すること

ア 「習得」の徹底と「探究と協同の学び」の継続

「習得」の徹底と定着を図るために、「導入」の工夫を行う。また、これまで培ってきた協同学習を継続させた授業を展開する。「共有の課題」と「ジャンプの課題」を用意し、ペアや四人組を活用し、「つなぐ」ことを重視した授業を行う。

イ 単元指導計画の充実

授業観察時に単元指導計画の記載された単元と本時のねらいと四人組のねらい、ICT活用のねらいを提示させ、教員の単元指導計画への意識を高める。単元のねらいとする学力をつけるために、より主体的に学ぶ生徒の力を引き出せる授業を行わせる。

ウ 「授業指針」に基づく日常の実践

「授業指針」を念頭に入れながら、単元指導計画を作成させ、授業を展開する。

エ 授業研究による切磋琢磨

校内でお互いに授業を見合う研修を引き続き実施する。主体的に学習に取り組める生徒を育成するために、ICTを有効活用し、個別最適な学びを進める手段や方法を追究していく必要がある。

オ 物事を多面的・多角的に吟味し見定めていく力（「クリティカル・シンキング」）の育成

「3つの内言（他に考えはないか・分かりやすいか・本当にこれでよいか）」を提示し、授業の終わりに振り返りの時間をとる。

カ 授業観察および面接を活用した授業力向上の取組

「授業観察クイックシート」および授業指針を活用した年間1回の複数人での授業観察およびリフレクションと年間3回の授業観察および面接を通して、教師一人一人の課題解決に向けた指導・助言を行う。

(2) 学校教育全般に関すること

ア 言語活動の育成

毎朝の10分間読書をはじめとして、発表スタンダードに基づく、「ノー原稿」発表など、伝える力をつける。

イ 自己有用感の育成

生徒会活動やボランティア活動など生徒が活躍できる場を意図的に提供し、自己有用感を醸成し、集団の中で自信をもって自己表現ができる集団をつくる。